

- ・IMOでは今年4月に国際海運のGHG削減に関する中長期削減目標を採択し、今後その実現に必要な新たな短期対策の策定に向けた国際交渉を開始予定。
- ・欧州等は、速度規制の導入を検討する動きがあり、海運の事業活動に悪影響を及ぼすことが懸念。
- ・日本は、合理的な対策の合意に向け、産学官連携で検討を進め、提案をとりまとめ。来春のIMO会合に提案予定。

2013年より世界的な燃費規制導入済。
更に、5年毎段階的に強化。

新造船



現存船

GHG排出の規制がなく、燃費の悪い船舶からのGHG排出が全体の大半を占める

【欧州等が志向するアプローチ】

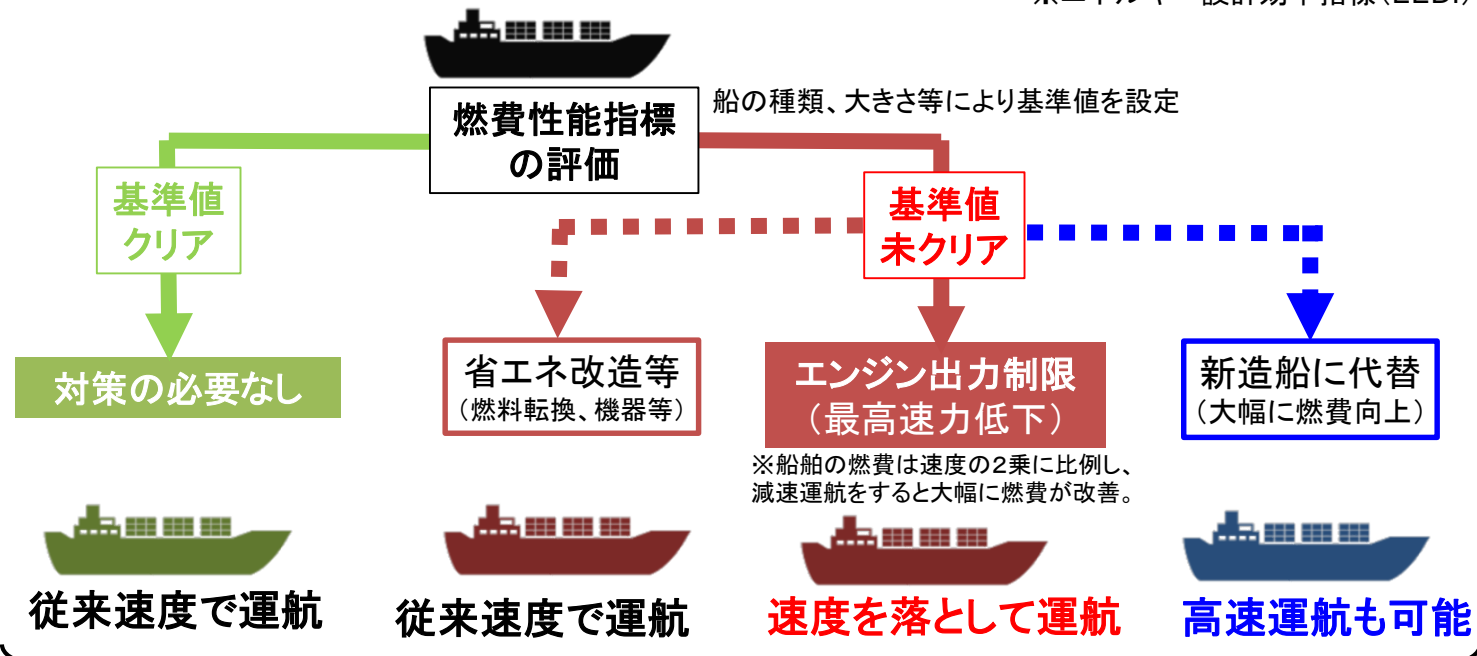
実際の運航における速度または燃費規制



経済活動の自由度に制限

【日本が検討中の案】一定の条件下における燃費性能*が基準値を上回ることを義務付け

※エネルギー設計効率指標 (EEDI)



2030年までに国際海運全体の燃費40%改善へ